

# 「ささえ」

2016年4月発行 情報誌 第55号

発行NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail [npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp](mailto:npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp)

新 URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

【商品名】自動排泄処理装置  
尿吸引ロボ「ヒューマニー」



夜ぐっすり眠れるから  
昼間頑張れる!



【発売元】大和ハウス工業(株)

【商品名】床ずれ防止用ハイブリッドマットレス  
「アルファフラ ソラ」

SORA



ハイブリッド型  
車いす用クッション

【商品名】  
アルファフラ  
ソラ クッション



【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人  
**NPO福祉用具ネット**

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい・・・」

## 「支え」について、考えてみたい

NPO 福祉用具ネット理事長 豊田 謙二 (熊本学園大学 教授)

誰にでも「障害」がある、と表現したのはドイツ北部の都市、ビーレフェルトにある「ベートル」のソーシャルワーカーであった。「ベートル」は神の家を意味しているが、19世紀半ばに「てんかん」の人を支援するために、ここに医療と福祉とを連携させた支援の地区が築かれるのである。

この「ベートル」での基本的な理念は、「施しより仕事」、なのである。もちろん、この「仕事」は強制されるものではなく、「個人的意思」が前提とされている。「施し」は金銭を指している。金銭には表と裏がある。つまり、聖と俗である。金銭はだれにとっても眩しく、ときには崇拝の対象でさえある。だが、人を闇の世界に誘う悪魔的な魅力さえ漂わせている。

「施し」ではなく、「仕事」で支える。この「ベートル」では、一人の障害のある人の「仕事」を創るために、ある人には2年間の年月を割くのである。学生は、いま「就活」の時期に突入である。仕事に自分を合わせることが強制される。それができないと、「努力不足」「無能力」の烙印が押される。「ベートル」では、ベクトルの向きが逆である。別の表現をすると、一般には仕事に人をあわせるが、「ベートル」では人に仕事を合わせるのが基本である。

この3月6日、福岡市天神において「精神障害の人の地域移行と地域定着」



ベートル本部

に関する講演・シンポジウムを私が企画し、当日の「シンポ」のコーディネーターを務めた。主賓としてお呼びしたのは、沖縄県那覇市の「ふれあいセンター」、それを立ち上げた永山盛秀さんと精神科に通う2人の当事者である。この「ふれあいセンター」において、20年間、上記「ベートル」の理念に活動を展開してきたのである。もちろん、「ふれあいセンター」は「ベートル」を知ることはなく、固有な歩みを続けてきた。

この「ふれあいセンター」の理念の一つは、「納得のいく社会参加」である。もちろん、「納得」は当事者のことである。ここでは、センターの運営、つまりスタッフはすべて精神科に通う当事者が担い、ソーシャルワークがその活動を支えている。

「ふれあいセンター」に参加するたびに、仕事の種類が増える、その人にふさわしい新しい「仕事」が創られるからである。こうした素晴らしい活動が展開されてはいても、精神障害のある人にとっては、なお、課題解決の入り口に立っているに過ぎないのである。

「精神病院」から退院できるのに、それを実現させない現実があるからである。「退院」を支え、さらに「地域定着」を支えるには住居と仕事、そして支える人が要となるのである。その要の位置に「ふれあいセンター」がいる。

入院生活が、10年、さらに20年に及ぶ人もいる。長く病床に閉じ込められるほど、支援のもとであれ、「自立的」生活にしり込みをしてしまう。

「ふれあいセンター」のメンバーは、入院している仲間の病院で、出張販売をして、また院内で「つどい」を開催する。退院して活動している仲間に促され、眠っている「個人的意思」が引き出されることが、期待されるからである。

日本における精神科病床の数は、約32万床である。先進諸国のなか



ふれあいセンターの集い

で、日本は群を抜いてその病床数が多いのである。とくに、1980年にイタリアは、公立の精神病院をすべて解体して、その機能を保健センターや精神科クリニックに置き換えたのである。そうして、地域で生活することへの支援が、つまり就労と生活への支援が社会的共同組合方式によって、実現しているのである。

こうしたイタリアの取り組みを通じて、当事者の地域生活は社会的支援によって可能であり、そのことが何ら、犯罪を増やすことにならないことが、実証されている。日本では、長期入院の精神障害の人の退院には、家族の受け入れを求めるが、その家族の負担軽減が支援されなければ、受け入れ不可能なことである。重要な点は、精神科に通う当事者の「個人的意思」を引き出すこと、その一人ひとりの「個人」への支援こそが求められているのである。

# 体圧検知センサ「SR ソフトビジョン」のご紹介

## ～車いすのシーティングツールとして・床ずれ予防のツールとして～

住友理工(株)健康介護事業室 高垣 裕平

### はじめに

こんにちは。住友理工の高垣と申します。

今回は弊社の柔軟体圧測定センサ「SR ソフトビジョン」について、活用事例を交えてご紹介させて頂ければと存じます。まず初めに、弊社「住友理工」について簡単にご紹介させて頂きます。

### ●住友理工って何の会社？

住友理工は愛知県の名古屋市にグローバル本社を置く住友グループの企業です。2014年10月より、旧「東海ゴム工業」より社名変更いたしました。

メイン事業としては自動車分野（エンジンの振動を低減する防振ゴムや燃料ホースなど）、IT関連分野（プリンタ内部の帯電ロール、現像ロールなど）、産業資材分野（建機向け油圧ホースなど）、建築分野（住宅向け制振装置など）で、ゴム素材を中心とした高分子配合技術をコアに、日本を含む世界23ヶ国で事業展開しております。

また、コア技術を生かした新事業への取り組みを進めており、その一つが今回ご紹介する「SR ソフトビジョン」になります。



### ●SR ソフトビジョンについて

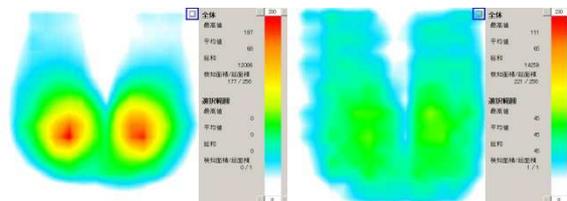
SR ソフトビジョンは柔軟なゴム素材で構成された体圧測定センサです。一般的には体圧測定センサといえば、高額で研究開発用のものをイメージされると思うのですが、SR ソフトビジョンはリーズナブルな価格設定（分布版2：14.8万円、数値版：29.8万円（税別））で操作も簡単、また耐久性も非常に高く、介護や医療の現場で使えるセンサとしてご好評を頂いております。



では、センサで体圧を測定することで何ができるのでしょうか？事例を交えてご紹介させて頂きます。

### ～床ずれの予防ツールとして～

寝たきりの方や車椅子を使用されている方は、局所的に体圧が集中した状態が続くと、その部分の血流が阻害され、床ずれ発症のリスクが高まります。そのため、体位交換やポジショニングクッション、床ずれ防止マットレスやクッションを活用して体圧を分散させるのですが、実際にちゃんと分散できているかを確認するのは困難です。そこで、実際にセンサを使って体圧分散を「見える化」することで、ケアや道具の効果を確かめることができます。目で見確認できるため、利用者やその家族、その他関係者への説明が容易になり、エビデンスに基づいた納得した福祉用具選びが実現できます。



色の濃い部分が、体圧が集中している箇所です。同一人物で、左側がクッションなし、右側がエアクッション使用の画像なのですが、まさに一目瞭然です！

実際に病院、施設内で採用頂けるようになり、実績は全国150カ所を超えました。ご使用頂いている皆様からは「知識や経験だけでなく、エビデンスに基づいた説明ができるようになった。」や、「気軽に使えて高耐久、コスパが高い！」など、喜びの声を頂けるようになりました。

### ～リハビリの支援ツールとして～

高齢による筋力低下や、脳血管系、先天性、進行性の疾患によってバランス能力が低下し、座位が取れない、まっすぐ座れない、といったケースがあります。多くの場合、車椅子や座位保持装置を使用したり、リハビリ訓練によって安定的な座位を目指すと思うのですが、こんな時にも体圧測定は有効です。

鏡や写真を使ってのバランス訓練に加え、リアルタイムで体圧分布を測定し、患者とセラピストが情報共有することでバイオフィードバック療法を行うことができ、**患者のモチベーション向上、訓練効率の向上**が期待できます。また、体圧分布に加えて、面圧中心点の表示もできますので、移動荷重を「見える化」することで重心コントロールの訓練も可能です。

## ～教育訓練、指導ツールとして～

床ずれ予防やリハビリも、一人の力でやることはできません。関係者が一丸となって取り組むためには、正しい教育が不可欠です。また、教育を受けて知識を得、それを活かす為には実践することが大事です。こんな時にも体圧の「見える化」は効果を発揮します。

ある病院では、看護師やスタッフの教育に、SR ソフトビジョンを活用頂いております。ポジショニングやシーティングの教育の際に、実技を見せてそれを実践させることに加え、体圧分散を「見える化」し、共有することで、より理解が深まり、**教育効果、意識の向上**が期待できます。

ベッドのギャッジアップ角度、背抜きの方法の教育の際にも、実際にベッドで体感することに加えて、体圧を「見える化」することで、より理解が深まります。ある施設では背抜きの方法を教育する際にSR ソフトビジョンを活用頂き、実際の体圧を確認しながら背抜きの方法を覚えることで、“やったつもり”のケアにならないような訓練を実施されています。

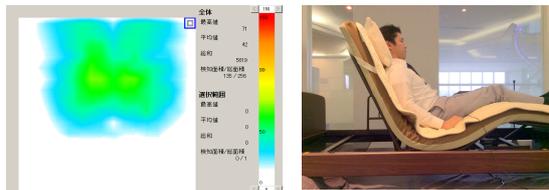
### <ギャッジアップ前 仙骨部>



### <ギャッジアップ後 仙骨部>



### <背抜き後 仙骨部>



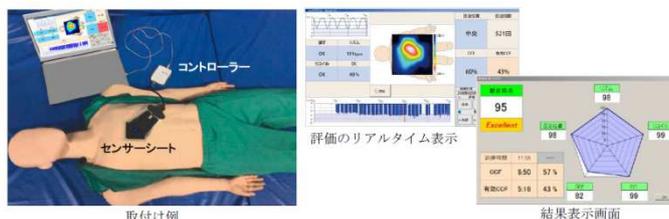
(体圧画像は足方向が上、頭方向が下です。)

これまで紹介させて頂いた事例の一部は、弊社が発行する情報誌「タイアツッ!」に実際のインタビューが掲載されております。無料配布しておりますので、担当者までお気軽にお問合せ下さい。

## ●新たな開発品に向けて

2013年1月に体圧分布のみを表示する、初代「分布版」を発売し、以降、数値表示できる「数値版」、タブレットでも使える「無線版」、昨年秋にはマットレスサイズの「全身版」を発売し、ラインナップを増やしてきました。現在も新たなタイプのセンサの企画や、九州大学と共同で、センサ内蔵の自動除圧マットレスなどを開発しています。また、昨年12月には、福岡県糸島市—九州大学—住友理工の3者で協定を結び、共同開発品の実用化や介護予防事業モデルの構築を目指していきます。

また、今年4月には新商品として、心臓マッサージ訓練センサーシステム「しんのすけくん」を発売する予定です。



これからも積極的に新しい製品の開発を進めて行きます。皆様にもご意見、ご協力をお願いすることもあるかもしれません。その際にはぜひ宜しくお願い申し上げます。

## ★まずはお試し!★

これまで弊社のSR ソフトビジョンの活用方法についてご紹介させて頂きましたが、「百聞は一見にしかず」、まずは**実際にお試しください!**

実際に使って頂くことで、体圧測定のメリットをご理解頂けると思います。デモ機をご用意しておりますので、お気軽にご依頼下さい!

担当が全国各地、どこへでも駆けつけさせていただきます!

電話: 0568-77-2975 Mail: sr@jp.sumitomoriko.com

弊社ホームページには、より詳しい製品情報や、各種情報をアップデートしています。ぜひこちらをご覧ください。



<http://www.sumitomoriko.co.jp/product/health/>

「住友理工 健康介護」で検索♪

# 自動排泄処理装置 尿吸引ロボ『ヒューマニー』の新たな門出

ユニ・チャーム ヒューマンケア(株) 代表取締役 松岡 逸海

## 排泄介護との出会い

1987年、急遽ライフリーのブランドマネージャーになったことが介護との出会いでした。当時私は生理用品「ソフィ」のブランドマネージャーをしていましたが畑違いの商品を任せられ戸惑ったのを覚えています。前年にユニ・チャームは排泄介護用の大人用紙オムツ「ライフリー」を販売開始していました。高品質、高価格の紙オムツでスキンケア用品も取り揃えたフルラインの鳴り物入りでの発売でした。一斉配荷で専用ラックに大きく積まれた商品が薬局やスーパーの店頭に並び、大成功でした。しかし商品はほとんど売れず一年後には在庫の山になっていました。良い商品が何故売れないのだという思いを持ちながら、もう一度、リマーケティングの為の市場実態、現場分析を始めました。紙おむつの使われ方や布オムツとオムツカバーなどの使われ方は千差万別、であることなど色々なことが分かってきました。同じ紙おむつでもベビー用と大人用とでは環境が違う点でした。ベビー用紙おむつは赤ちゃんのオムツ離れまでの約1年半~2年半の使用期間が限定になります。期間が限られていることと生まれたばかりの子供に対する愛情からより良いものを購入していただけるという実態がありました。逆に大人用オムツは実の親であっても何年続くか分からない介護への不安から節約しながら介護をされている家庭が多く、高価なオムツが簡単には受け入れてもらえないことも良く分かりました。日々節約しながらどの様な排泄介護をされているのか調べた結果、生まれたのが「ライフリー尿取りパッド」でした。介護者の方は大型紙オムツや布おむつが少量のおしっこでも全部を交換しなくて済むように平版タイプの吸収シートを半分に切って粉碎パルプが切れ目から出ないようにセロテープで綺麗にとめたものを股間に当てて使用していました。「尿取りパッド」今では当たり前前の商品ですが、この当たり前前の使われ方をされている商品もこんな形で生まれてきました。こんな必然から生まれた商品も社内や市場からは全く見向きもされませんでした。そんな中でこの商品が徐々に認知されだしたのが九州からでした。当然このような商品は飛ぶように売れるものではありません。一つ一つ説明をして分かっていただけて使っていただく商品でした。当社の当時の九州支店長と九州の創建さんが地道に取り組んでいただいた結果が

当たり前前の商品に変わっていったのです。

## ヒューマニーとの出会い

2002年に老老介護の末、実父が亡くなりました。介護現場は壮絶を極め、母親も一緒に死んでしまうのではないかとされる介護でした。元々体格の良い父親でしたので寝たきりになってからは、体位移動だけでも母親は苦勞でした。排泄介護はなおさらで、おしっこ量も多かったため真冬の朝にパジャマやシーツ、掛け布団までぬれてしまっていると着替えと交換で84歳の母は大変だったようです。2004年に日立製作所さんとユニ・チャームと「排泄吸引ロボ」の新しい排泄介護のプロジェクトがあるということで、その発起会に参加したのを覚えています。父親の介護を見ていた私にとっては排泄介護の大変さは良く分かっていたので、このプロジェクトに対する期待は大きなものでした。残念なことに翌年異動でヘルスケアから本社人事へ異動となり、その後Pet事業に行った為介護からは大きく離れてしまいました。

## 再登板

介護の現場は厳しいという認識。介護を受ける人にとっても介護をする人にとっても特に排泄介護の現場は大変です。ヒューマニーを販売させていただいて8年が過ぎています。現在約1200人の方がヒューマニーをご使用いただいているのが統計から分かります。排泄介護を受けている方の人数からすれば小さな数字に見えるかもしれませんが、これで良いと思っています。この製品は介護をする人がしっかりとオムツを装着できなければ機能を発揮しない製品だからです。製品開発段階からご指導いただいたNPO福祉用具ネットの大山美智江さんが言われているように装着さえしっかり出来れば、自動排泄処理装置「ヒューマニー」の価値を見いだしていただけたと思います。

この製品を使っただいて、「夜間ぐっすり寝ることが出来た」「床ずれがずいぶん改善された」など感謝の言葉を聞いた時、私はこつこつ積み上げていくやり方でも、開発者の思いを載せてこの製品を今後も普及していきたいと思っています。

未熟者ですが今後も宜しくご指導をお願いいたします。



## 心機一転、新たな出発

コネクト リハビリテーション代表・作業療法士 山形 茂生 (NPO 福祉用具ネット理事)

### 「コネクトリハビリテーション」から新たな出発を

別府の病院に務めているとき、20年近く前に事務職の先輩から「あなた一人でみられる患者さんは、一日十数名と限られているでしょう。しかし、あなたが考えていることや、行っているリハビリについて、後輩に教育することで多くの患者が喜ぶのではないか」と言われたことがありました。このことを胸に刻んで業務に励んできました。

時が過ぎ、立場が変わり、先輩から指導された言葉をかみしめ、後輩を教育できる立場を与えられて、充実した日々を送ることができていました。

しかし、徐々に病院という一つの組織の中での仕事に限界を感じることも多くなりました。

そんな中で、自分のやりがいをもどのように構築したらよいかかわからず、悶々とした辛い日々が過ぎていきました。やがて、自分の身体や精神も限界を感じるようになり、家族にも心配をかけてしまいました。

それらのことから、今回、新たな出発をしようとして一大決心をすることに至ったのでした。

新たな出発は組織の中とは異なり、すべてが自由であり色々なことを縛りなく発想でき、動くことができます。反面、社会人としての後ろ盾や経済的な保証はなく、この責任も自分に大きくのしかかってくることにもなります。

そんな中で、今回、『コネクトリハビリテーション』という名前を起業することにしました。

### 命名に込めた思い

今回の起業（個人事業）に際しては、大分県の外郭団体の『スタートアップセンター大分』に相談し助言をしていただくことができました。

その過程で、今までやってきた仕事や活動内容を活字にして25年間を振り返ってみました。そして、今後、何をどのように展開していくのか、その方向性について検討しました。この振り返りをするので、漠然としていた今までの活動を明確にすることができたように思います。

その際のキーワードは「つなげる」でした。このつなげるとは「人と人をつなげる」や「人と福祉用具をつなげる」、「利用者と企業をつなげる」などの仕事に多く関わってきたことが判ったのでした。

このキーワードから『コネクト（つなげる）リハビリテーション』と命名することにしました。

これからも、沢山の皆様にお会いして、皆さんが笑顔になれるように「つなぐこと」が私の役割と感

じています。

### 現在の活動内容について

県内の福祉用具レンタル事業所に週1回程度、職員教育の担当として、福祉用具の勉強会を開催しています。また、営業に行った先のデイサービスの従事者や介護専門員の方々に開催してほしい勉強会の内容を伺ってもらい、その事業所に出向き、お話をさせてもらっています。内容としては、スライディングシートなどを使用した介助技術や、ポジショニング、シーティングなどとなっています。余談ですが、私は愛想が良いほうではないので、このレンタル事業所に行くと「笑顔を作って」と指摘され、苦勞しているところです（笑）。

その他にも、デイサービスの事業所に出向き、利用者が快適に過ごせる環境のアドバイスや、介助する側・される側の円滑な介助技術向上のための伝達講習会の開催、一日を通してのサービス提供の質の向上を目的に、リハビリテーション内容・レクリエーションの具体的な提供方法などを職員に伝達しています。サービス内容を見直すことで利用者の日常生活の改善や身体機能の向上がみられる場合があります。

さらに、福祉用具製造業者の職員の方々に、私が経験してきた、医療や福祉の現状をお伝えしながら、リハビリテーションについての考え方や、患者・利用者、家族の方々の生活の状況について伝えることで、製品開発に役立ててもらえる活動なども行っています。

### 皆様へのメッセージ

まだ、今年の1月から新たに走り始めたばかりですが、皆さんのお役に立てることを行っていきたくと思っていますので、今後もよろしくお願いします。

### 相談先



コネクト リハビリテーション

Connect Rehabilitation

〒879-5506

大分県由布市挾間町挾間 245-7（自宅兼事務所）

e-mail:s.yamagata01@gmail.com

TEL:090-1975-5849

※シンボルマークを坂田副理事長と大山事務局長に作成してもらいました。

### マークに込めた思い

《人と人をつなぐリハをマークにしたもの》

## 平成28年度 NPO福祉用具ネット主催研修会 年間予定一覧

月日		テーマ	時間	講師
5月13日	金	キネステ体験講座 夜間コース	18時30分～ 20時30分	福岡ひとにやさしい介助を考える会 海尾美年子（キネスティクス®ベーシックコース教師）
6月4日	土	キネステベーシックコース1日目	9時～17時	福岡ひとにやさしい介助を考える会 松村美幸（キネスティクス®ベーシックコース・アドバンスコース教師） 海尾美年子（キネスティクス®ベーシックコース教師）
6月5日	日	キネステベーシックコース2日目	9時～17時	
6月18日	土	キネステベーシックコース3日目	9時～17時	
7月2日	土	キネステ体験講座 土曜日コース	14時～17時	福岡ひとにやさしい介助を考える会 海尾美年子（キネスティクス®ベーシックコース教師）
8月26日	金	キネステ体験講座 夜間コース	18時30分～ 20時30分	福岡ひとにやさしい介助を考える会 海尾美年子（キネスティクス®ベーシックコース教師）
7月30日	土	メンタルヘルスケア2 回シリーズ 【1回目】	13時30分～ 17時	(株)cocotama 代表取締役 佐々木寿生氏 (心理カウンセラー・産業カウンセラー)
10月29日	土	メンタルヘルスケア2 回シリーズ 【2回目】	13時30分～ 17時	(株)cocotama 代表取締役 佐々木寿生氏 (心理カウンセラー・産業カウンセラー)
9月17日	土	移乗介助技術・動作介 助技術・ポジショニング 技術研修会 【基礎技術1日コース】	9時～17時	生き活きサポートセンター うえるば高知 代表 下元佳子氏（理学療法士）
9月18日 ・19日	日 ・祭	移乗介助技術・動作介 助技術・ポジショニング 技術研修会 【技術習得2日間コース】	1日目9時～ 17時 2日目9時～ 16時	生き活きサポートセンター うえるば高知 代表 下元佳子氏（理学療法士）
8月20日	土	排泄ケア ～1日コース今日一 日、とことん排泄ケア について考えてみませ んか！～	9時～ 17時30分	NPO福祉用具ネット専門職理事など ・山形茂生（OT）・海尾美年子（PT） ・辻奈美（オムツフitter-1級） ・大山美智江（NS）
9月3日	土	おむつ検定& 直前受験対策講座	13時30分～ 16時10分	おむつフitter-他

◆その他、西日本国際福祉機器展にてブースセミナーなど開催予定です。

◆28年度研修会の詳細情報や申込方法は各研修会別の案内チラシでご確認下さい。

◆募集定員や受講対象者、受講費用などをご確認の上、お申込みをお願いします。

◆受講申し込みは、所定の申込用紙で締め切り日までに郵送又はファックスでお申込み下さいませようお願い致します。

## 事務局だより

### <28年1月から3月までの事務局のうごき>

#### 平成27年12月のつづき

- 12月17日 事例相談
- 12月21日 企業コンサル業務 東京
- 12月23日 長崎大学 開発相談

#### 1月

- 1月4日 携帯電話交換
- 1月5日 開発相談
- 1月9日 PC修理
- 1月13日 次年度研修会打合せ
- 1月14日 開発相談
- 1月19日 2月研修会の打合せ
- 1月21日 開発相談
- 1月22日 開発会議 北九州市
- 1月26日 研修会配布資料送付
- 1月27日 九大主催研究会受講
- 1月28日 開発相談 福岡市

#### 2月

- 2月5日 安寿会主催研修会
- 2月6日 理事会
- 2月13日 事例相談2件
- 2月17日 プロジェクト会議
- 2月18日 企業コンサル業務 東京  
事例相談
- 2月20日 開発相談
- 2月22日 事例相談
- 2月23日 3月研修会打合せ
- 2月26日 開発相談
- 2月29日 開発相談

情報誌ささえ55号企画

福祉用具国民会議署名活動

#### 3月

- 3月5日 研修会企画打合せ会議
- 3月8日 開発相談
- 3月9日 開発相談
- 3月11日 長崎佐世保ケアマネ研修会
- 3月15日 開発相談
- 3月18日 開発相談
- 3月23日 開発相談

情報誌「ささえ55号」発行準備

### <今後の予定4月~6月>

- 4月16日 理事会
- 4月21日~23日 大阪バリアフリー展
- 5月13日 キネステティクス体験講座
- 5月20日 総会
- 6月4日・5日 キネステティクスベーシックコース
- 6月17日 安寿会主催 排泄ケア研修会 宮崎市
- 6月18日 キネステティクスベーシックコース
- 6月24日~26日 高知展示会

### 平成28年度 通常総会のご案内

以下の日程でNPO福祉用具ネットの総会を開催致します。正会員の皆様は必ず出席もしくは委任状の提出をお願い致します。

日時:平成28年5月20日(金) 受付 18時

開始 18時30分

会場:福岡県立大学附属研究所2階中セミナー室  
(出欠届及び委任状の提出締切は5月13日厳守)

議案・出欠届け・委任状は会員様には本情報誌とともに郵送していますのでご確認お願い致します。

### 1,539名もの方々のご署名に感謝申し上げます!

九州ホームケアサービス株式会社 / 権藤 昭雄

NPO福祉用具ネットの会員やそのお知り合いの方々「国民のみなさま」からは1,487名、「介護支援専門員の皆様」から52名の皆様から「現行の介護保険の仕組みを維持してください」とする旨の署名活動にご賛同いただき、心より感謝申し上げます。(おかげ様で弊社の取りまとめ件数は4,579名に達しました)

この署名活動は、「骨太の方針2015」として閣議決定された①要支援1~要介護2を軽度者として地域支援事業へ移行 ②生活援助・福祉用具貸与・住宅改修の費用は原則自己負担化

③利用者2割負担の対象を前期高齢者全てに拡大(その後、後期高齢者も)とする政府の2018年制度改正案にブレーキをかけたいとするものです。

このため、NPO福祉用具ネットの皆様にもご支援をお願いしたところであり、皆様方の熱い情熱と迅速な行動の結果に相応しいお礼の言葉が表現できず申し訳ございません。

ご高承のとおり、福祉用具や住宅改修は生活基盤整備財として尊厳を守り・自立支援や介護負担軽減に寄与・心身の状態悪化をも抑制・総合的に費用抑制にも大きく寄与するサービスであり、これらの必要性が高い“軽度者”について介護保険から割愛されることは許し難いことです。3月3日の国会予算委員会でも上記の②についての質問がなされましたが、政府は「まだ財務面からの意見であり、未決定のもの」と答弁するだけで、①と③については公表を避けているようです。(参議院選挙が間近であり、この波紋を回避するためではないかとの声も聞かれますが・・・)

署名活動は2月末で一旦締め切られましたが、5月末頃まで継続することになりました。

ご多忙な中で大変恐縮ですが、再び署名活動の輪を広げていただければ幸いです。

何卒よろしくお願い申し上げます。

そして、本当にありがとうございました。